一家揃つて『香山』姓へ[[1]](#footnote-1)

**半島文壇の大御所　李光洙さん　氏へ名乗り**

の兵度が實施されて通りの内一に半同は國としてのびに沸き返つてゐるが、今度は朝事令の一正につて半人も内地人式の苗に「氏」の設が出來るとに[、]從來許してなかつた内地人が半人の子になり得る度が新たに成し[、]かしい元二千六百年の新を前に後半はにえ立つてゐる時、前朝人協會長で朝の大御所、春光洙氏が半インテリに魁けて内地の氏を、意い新から正に使用することになつた[。]『香山光郎』が李さんの新しい苗と新しい名前……

「私は昔から山が好きでね、子々孫々に傳はる氏の創始ですから、どんな苗字にしたらいゝかと隋分苦心しました。やつと決まつたのですが未だ家内とも相談してないのです」

とさんは「氏」設のうれしい心をるのである、アト日でかしい紀元二千六百年の元だ、橿原の天の香具山を起せば、生れ代つたやうな、らしい苗である、名前の「光郎」の「光」は「光洙」の「光」をとつて内地の「郎」をつけたもの[、]「みつを」とんでも「こうらう」とんでもいゝでせう、とさんの説明はつゞくのである、しかしこのフレツシュな名前はさんだけがしようとするのではない、令、令はよりさんからお孫子さんに至るまで一に新しい名前が出來上つたのである――次男は次郎に、三男は榮に、長女は蘭子さんに、次女は子さん、それからおさんは千代さんに、お孫さんは明子さんと……これらの名前はいづれも從來使用してゐたものをとしてしづつ内地にをかへたもの

「二千六百年前神武天皇が御即位遊ばされたカシハラは二千六百年前[に]朝鮮の東扶餘が都を決めたカソツプポル（ポルは原の意）と語源[が]同じです、少なくとも今を去る一千二百年前[の]推古天皇の御代まで[は、]朝鮮に對し外國という觀念を持たなかつたのです、今日半島人が使つてゐる支那式の姓名はせいぜい七百年位の歴史しか持たない、それまで[は]今内地人が使つてゐる苗字と殆んど同□だつたのです、何々麿とか、武夫とかいふ名前は、新羅時代に廣く使はれてゐたものです、恰度七百年前の先祖にかへるやうなもので、支那式の名前をいつまでも使つてゐるよりか内地式に變へた方がどれ丈自然か知れません、朝鮮のインテリは自分自身が形式、内容とも一日も早く日本國民になり切つて同胞をこの方向に導き一日も早く日本國民になり切らせること、これがもつとも大きい仕事ではないでせうか」

さんはえるやうな信をるのであつた。

1. 1939年12月20日　朝刊7面 [↑](#footnote-ref-1)